

姉妹町と交流

「トワイライト2006」 「パナウル少年の船」

錦江町の子供たちが与論を訪問
「トワイライト2006」

8月8日から11日にかけて、姉妹町である与論町を3泊4日の日程で、町内の小中学生が訪問しました。

期間当初は台風の影響が心配されましたが、3日目からは好天に恵まれ、若干の予定変更があったものの、無事活動を終了することができました。短い期間ではありましたが、黒糖搾りや自転車での島内めぐり、与論町の歴史を勉強するなど、与論町の人々にふれあい、いろいろな体験をすることができました。



班別活動による野外炊飯。みんなで協力しておいしいご飯が出来ました。



自転車での島内めぐりの様子。

与論町の子供たちが来町 「パナウル少年の船」

8月15日から17日にかけて、与論町の小中学生14人が錦江町を訪問しました。

到着した日の午後、盤山自治会を訪れ、有馬功さん（盤山自治会）から盤山の紹介、与論町から盤山に入植した経緯や開墾をしたときの様子を説明され、開墾し整備された茶園を見学しました。

そのほか、神川大滝・つり橋の見学、花瀬でのキャンプやニジマス釣り体験、カブトムシ捕りなどの体験を行いました。3日間の滞在でしたが、夏休みの良い思い出になったのではないのでしょうか。トワイライトやパナウル少年の船などの実施により多くの交流が図られ、人的ネットワークが広がることを期待します。



盤山集落センター敷地にある「拓魂」の石碑の前で盤山の皆さんと。



盤山の茶園。タイミングよく機械で作業する風景を見ることが出来ました。

● 町内交流の出来るようなイベントを行い、2つの地区が認め合いながら、「錦江町」という1つの町であるという意識を作り上げることが重要ではないか。

町づくりへの意識

● 地域づくりを行っていくにあたり、1つの町として何をアピールするのかがはっきりしていないと感じた。

● 地域づくりに対する役場と住民の意識の差が大きい。イベントのほとんどが役場中心で行われている。

● 役場と住民が気軽に話せる雰囲気がある。こうしたことを有効に活用し、イベント・事業に住民が積極的に運営参加し、住民中心の町づくりを目指す必要がある。

● 廃校舎利用計画に住民参加を
● 大原中学校の利用計画に、地



神川納涼大会にて。前日の準備から参加し、すっかり青年団に溶け込んでいました。

域住民がどの程度参加できているのか。また、どのように考えているのかが見えてこなかった。住民がどのように関わっていくのか、という問題を考えることは今後の地域づくりの重要な鍵になると感じた。

● 定期的に役場と地域住民の意見交換会を開催するべきである。交流を深める上でも、交流会を兼ねて開催することが望ましい。定期的に行っていくことでよりよい廃校舎利用計画を立てることが出来るのではないだろうか。



茶農家での農業体験。機械で茶摘みに挑戦しました。



報告会にて。錦江町にとって、貴重な提案をしてもらいました。